



北海道大学 特別教育プログラム

Nitobe College

新渡戸カレッジ





「光」は「北」から、 「北」から「世界」へ

新渡戸カレッジは、国際的な感性を持った豊かな人間性をはぐくむための分野横断的な特別教育プログラムです。北海道大学の教育プログラムの中でも、異彩を放つものであり、これまで、高い評価を得てきました。2013年に学部生を対象とした「新渡戸カレッジ」を、2015年に大学院生を対象とした「新渡戸スクール」を開校し、さらに2019年に両者の統合を経た上で、2024年よりは新生「新渡戸カレッジ」として、学士課程・修士課程6年一貫のプログラムをより強化したところです。

北海道大学は、1876年の札幌農学校設立以来、その歴史の中で「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」という教育研究に関わる四つの基本理念を掲げるとともに、今日まで学問の自主、自由の精神を培ってきました。その中、札幌農学校の第二期生である新渡戸稲造は、豊かな精神性と真摯な活動により、本学の目指す人材育成において一つの規範とすべき存在といえます。

この「新渡戸カレッジ」では、新渡戸稲造から学ぶべき精神として、①各国・各地域間の架け橋となるべき「国際的精神の涵養」②深い専門性の探究

に加えて「幅広い一般的教養の修得」③社会的リーダーにともなう義務「ノブレス・オブリージュ」の遂行」を掲げ、この三つを教育上の理念とします。

新渡戸カレッジにおいては、本学の基本理念と新渡戸稲造から学ぶべき精神に基づきつつ、各々の学問分野における専門性を重視するとともに、学部カリキュラムでは、5つの力（自己成長力・コミュニケーション力・多文化理解力・課題解決力・社会的倫理観）を身につけること、また大学院カリキュラムでは、3+1の力（能力更新力・組織形成力・社会還元力・専門職倫理）を修得することによって、いずれのカリキュラムもそれらの力を発揮できるグローバルリーダーを育成することをめざしています。また、本学同窓生等からなる新渡戸カレッジフェローおよびメンターによるグローバルなキャリア形成の支援教育により、豊かな人間性を醸成しています。

本学の総長メッセージで、私は、「光」は「北」から、「北」から「世界」へという表現を使っています。新渡戸カレッジは、その「光」を放つ重要な教育プログラムであると確信します。

北海道大学総長／新渡戸カレッジ校長
實金 清博



新渡戸カレッジの 教育の特徴

1

グローバルリーダーを育成する 学部から大学院までのワンプログラム

学部カリキュラムと大学院カリキュラムから構成される1つのプログラムですが、どちらか一方のカリキュラムに参加することもできます。
各カリキュラムの修了時には称号が付与されます。



2

グローバルリーダーに必要な マインドとスキルを育む教育内容

北海道大学の基本理念及び新渡戸稲造から学ぶべき精神に加え、グローバルリーダーに求められる「5つの力」(学部)と「3+1の力」(大学院)を身につける教育を行います。[詳しくは次ページ]

3

自律的な個人の確立と 専門能力を高める海外留学

学部カリキュラムでは、海外において高い倫理観と豊かな人間性をもった自律的な個人の確立、論理的な思考力と高い専門性を身につけることを目的として海外留学を必修としています。海外留学においては、各種奨学金制度により渡航費や留学中の生活費などを支援します。



4

国際社会の縮図と領域横断的環境の提供

留学生の割合が高い大学院カリキュラムでは、属性の異なる大学院生が高い専門性を持って集います。国際社会の縮図を教室内で実現するとともに、専門分野の異なる学生たちが協働してチームで学習します。このことを通じて多様性を受け入れ、自らの専門知識を深化させるとともに、専門領域を超える力を身につけます。なお大学院カリキュラムでは、授業や学生によるチームディスカッション、プレゼンテーション等はすべて英語で行われます。

5

「フェロー」・「メンター」によるキャリア支援

新渡戸カレッジでは、国際経験豊かな同窓生等から選ばれた「フェロー」(学部)・「メンター」(大学院)が関与する科目が提供されます。カレッジ生のロールモデルとなるフェロー・メンターとの出会いを通して、人生の意味、大学で学ぶことの意義を考え、自己省察する機会が得られます。彼らと身近に接し、対話することで、視野を広げ、将来の人生設計(キャリアデザイン)の検討への第一歩を踏み出すことができます。



北海道大学

新渡戸カレッジとは

各学部・大学院での専門教育や研究に加えて、グローバル社会で活躍するために必要なマインド・スキルを身につけるプログラムです。

北海道大学の学生を対象とする分野横断型教育プログラムです。

新渡戸カレッジの ビジョン

北海道大学の基本理念及び新渡戸稲造から学ぶべき精神に基づき各々の学問分野における高い専門性を修得するとともに、分野横断的な教育プログラムの履修を通して、グローバルリーダーの育成を目指します。



北海道大学の基本理念

フロンティア精神

国際性の涵養

全人教育

実学の重視



新渡戸稲造から学ぶ精神 (新渡戸カレッジの教育上の理念)

各国・各地域間の架け橋となるべき
国際的精神の涵養

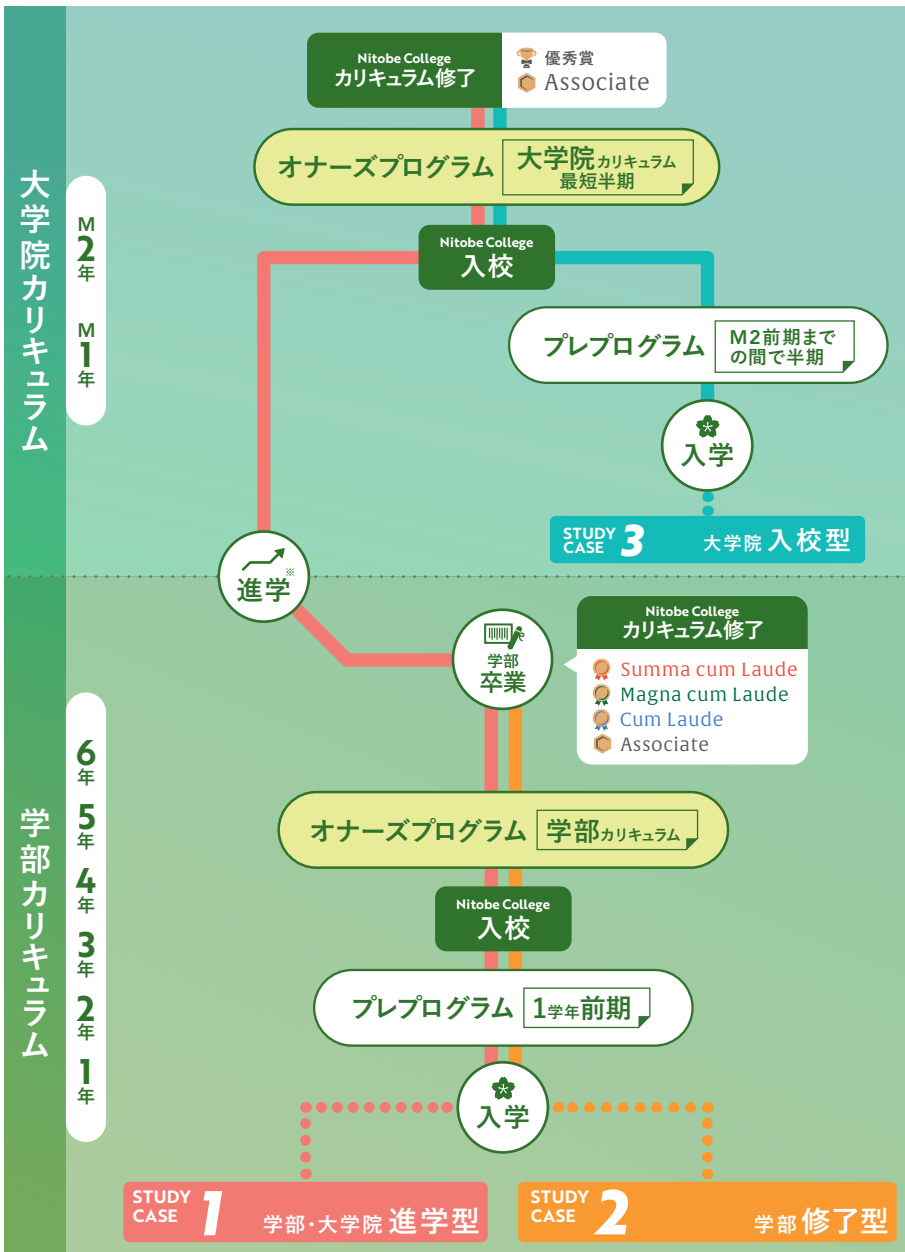
深い専門性の探求に加えて
幅広い一般的教養の修得

社会的リーダーにともなう義務
ノブレス・オブリージュの遂行

新渡戸カレッジの 入校と修了

以下の3つのパターンがあります。

STUDY CASE 1 学部および大学院カリキュラムのすべて
STUDY CASE 2 学部カリキュラムのみ
STUDY CASE 3 大学院カリキュラムのみ



学部で身につく

5つの力

- ✓ 自己成長力
- ✓ コミュニケーション力
- ✓ 多文化理解力
- ✓ 課題解決力
- ✓ 社会的倫理観

大学院で身につく

3+1の力

- ✓ 能力更新力
 - ✓ 組織形成力
 - ✓ 社会還元力
- +
- ✓ 専門職倫理

INFORMATION about Nitobe College

入校時期

- 学部** 1年後期 1年前期のプレプログラム科目を修得後に入学
- 大学院** 春・秋の年2回 前期または後期のプレプログラム科目を修得後に入学

入校要件

- 1 プレプログラム科目の単位修得
- 2 一定レベルの英語能力
- 3 レポート課題の成績

詳しくは7・10ページ→

修了要件・時期

- 学部** 9単位以上、学部卒業時に修了
- 大学院** 4単位以上、最短半期で修了可能

※Cum Laude以上の称号を授与された学部カリキュラム修了生は、大学院プレプログラム科目の修得を経ずに大学院カリキュラムの履修が可能(要審査)

オナーズプログラム 学部カリキュラム

入校・修了要件／カリキュラム／称号

入校要件

入校には、1学期に開講されるプレプログラム科目2科目の修得と、一定レベルの英語能力およびレポート課題の提出が必要です。

✓ 1年次の学部生



✓ プレプログラム科目2科目の単位修得

✓ 一定レベルの英語能力

✓ レポート課題の成績

プレプログラム 1学年前期

オナーズプログラム 学部カリキュラム

修了要件

Check 9単位以上、学部卒業時に修了

オナーズプログラム学部カリキュラムにおいて、所定の単位を修得し、所属学部等において卒業認定を受けた者に、新渡戸カレッジオナーズプログラム学部カリキュラムの修了証書を授与します。さらに、英語能力と学部カリキュラムの成績によって、右図の4段階の称号を付与します。また、大学院カリキュラムにおいては、所定の単位を修得した時点で、修了証書を授与するとともに、Associateの称号を付与します。



新渡戸カレッジ
Summa cum Laude
(= with highest honor)



新渡戸カレッジ
Magna cum Laude
(= with great honor)



新渡戸カレッジ
Cum Laude
(= with honor)



新渡戸カレッジ
Associate

大学院に進学する場合

一定以上の称号(Cum Laude以上; 上記の修了要件参照)を授与された学部カリキュラム修了生は、大学院に進学後、大学院生向けのプレプログラム科目2科目の単位修得を経ずに大学院カリキュラムを履修することができます(履修にはレポート課題を提出し、審査を受ける必要があります)。その他の大学院生は、大学院生向けのプレプログラム科目2科目の単位を修得するとともに、一定レベルの英語能力およびレポート課題の提出があれば、審査の上、新渡戸カレッジオナーズプログラム(大学院カリキュラム)への入校が認められます。



必修科目



新渡戸学
(フェローゼミ)

必修

▶ フェローの主導により
現地視察の中から課題
を発見し、チームワーク
により課題解決方法を
探る演習

EN

留学支援英語

必修

▶ 少人数クラスの実践英語
▶ 英語によるコミュニケーション
能力の向上
▶ 留学時に必要なアカデミック
スキルの修得



海外留学

必修

▶ 新渡戸カレッジでは「海外留学」を必修
の科目に設定
▶ 各種プログラムから選択可能
▶ 奨学金制度による渡航費等の支援

[次ページ参照→](#)



授業科目	単位	修了要件	修了に必要な単位数
∞ 新渡戸学(フェローゼミ)	1	必修	4単位 以上
✈ 海外留学	1又は2	必修	
EN 留学支援英語	2	必修	
新渡戸学(セルフキャリア発展ゼミ)	1	選択	5単位 以上
海外短期語学研修	2	選択	
国際交流科目	1又は2	選択	
日本文化・社会に関する理解増進科目	1又は2	選択	
フィールド型演習	2	選択	
多文化交流科目	2	選択	
大学と社会	1	選択	
留学でひらくキャリアデザイン	2	選択	
専門横断科目	1又は2	選択	
英語による学部専門科目	1又は2	選択	
インターンシップ(国内)	1又は2	選択	
			合計 9単位 以上

Pre
Study

プレプログラム科目



グローバル
基礎科目

2科目

▶ 留学を、自分の目指す学びや研究を実現させるための手段として位置づけ、計画をたてる「国際理解と海外留学」
▶ リーダーのあり方や必要な資質などについて、チーム活動の実践を通して考える「リーダーシップとチームワーク」



海外留学

新渡戸カレッジの海外留学には長期留学プログラム(交換留学)と短期留学プログラムの2種類があります。新渡戸カレッジでは「海外留学」として、長期留学を奨励していますが、所属する学部・学科カリキュラムの関係上、長期留学が困難な場合においても、さまざまな短期留学プログラムが提供されています。また、北海道大学では各種奨学金制度を設けており、渡航費や留学中の生活費を支援しています。

長期留学プログラム(交換留学)



長期留学プログラム(交換留学)は、北海道大学の交流協定大学(およそ50の国と地域、200あまりの大学等)に1年未満留学する制度です。留学先で修得した専門科目の単位が、所属部局が認める範囲内で設定されます。

短期留学プログラム



◎学部専門レベル短期留学

学部等が独自に開発し、単位認定している短期留学プログラムです。詳細は、所属する学部等にお問い合わせください。

海外留学



オナーズプログラム 大学院カリキュラム

入校・修了要件／カリキュラム／称号

入校要件

修士課程・専門職学位課程に在籍する学生を対象とします。入校には、プレプログラム科目2科目(大学院)の修得と、一定レベルの英語能力およびレポート課題の提出が必要です。なお、Cum Laude以上の称号を授与された学部カリキュラム修了生は、プレプログラム科目2科目(大学院)の修得が免除されます。

修了要件

所定の単位(4単位)を修得した者に、新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムの修了証書を授与するとともに、Associateの称号を授与します。さらに、成績優秀者には優秀賞が授与されます。大学院カリキュラムは最半年で修了が可能です。

主要科目



グローバル
発展科目Ⅰ
(課題解決の実践)

必修

▶ 新渡戸カレッジ学部カリキュラムやプレプログラム科目を通じて培った能力を生かし、国際的な課題に取り組むプロジェクトをチームで実施し、高い課題解決力を身につけます。



グローバル
発展科目Ⅱ
(課題発見の基礎と実践)

選択

▶ 課題発見のための基礎を学ぶとともに、フィールド調査によるデータ収集や分析などの実践を通して、課題発見の重要性を理解し、独創的な問いを発見する能力を磨きます。

授業科目	単位	修了要件	修了に必要な単位数
グローバル発展科目Ⅰ(課題解決の実践)	2	必修	必修科目2単位を含む 合計4単位以上
グローバル発展科目Ⅱ(課題発見の基礎と実践)	2	選択	
新渡戸カレッジ特別演習	1又は2	選択	

Pre
study

プレプログラム科目



グローバル
実践科目Ⅰ・Ⅱ

チーム学習の
基礎・実践

▶ チームワークに貢献するための個々のスキルを伸ばすとともに、チームワークに必要な知識と技法を身につけます。

▶ 具体的事例に関するチームワークを通して、国際的に活用されているプロジェクトマネジメントの手法を修得します。



サポートシステム

フェロー・メンター制度

北海道大学の卒業生・修了生の多くは、国内外の様々な分野で中核的存在として活躍しています。こうした同窓生等のなかから選ばれた人々が「新渡戸カレッジフェロー」(学部)・「新渡戸カレッジメンター」(大学院)となります。新渡戸カレッジ生のロールモデルとなるフェロー・メンターがキャリア教育に携わります。



同窓ネットワーク

同窓ネットワークでは、新渡戸カレッジの在校生と修了生、フェロー、メンター、教員の相互交流の機会を提供します。同窓ネットワーク誌「ACROSS」の発行(年1回)や同窓ネットワーク登録者へメールを配信します。



チューター制度

新渡戸カレッジでは、2年次以上の学部学生や大学院生が「チューター」として授業やイベントの運営を支援し、履修生の学びや成長をサポートしています。経験豊富な「コアチューター」が全体の調整や助言を行い、学部・学年を超えた交流を促進するとともに、リーダーシップやファシリテーション等の実践的な力を育む機会となっています。



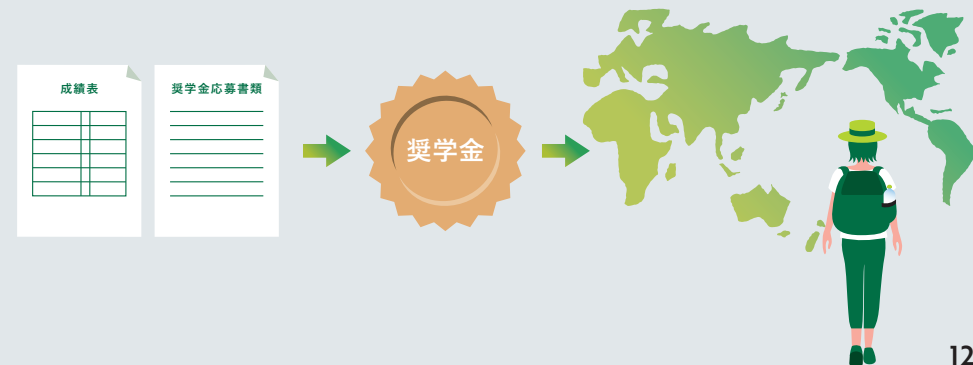
新渡戸ポートフォリオ

新渡戸ポートフォリオ(NPF)とは、オンラインの学習・研究履歴記録システムであり、新渡戸カレッジでの学修や研究活動を記録し、振り返ることを可能にするとともに、「5つの力」や「3+1の力」の成長を可視化することができます。



奨学金

新渡戸カレッジに在籍する学部学生を対象として、海外留学支援を目的とした奨学金があります。また、新渡戸カレッジに在籍する大学院生には修学支援を目的とした奨学金があります。いずれの奨学金も、受給者の選考にあたっては、成績や応募書類の内容等から総合的に判断します。





先輩たちの Nitobe College 体験談



01

法学部 占部 心雪さん

新渡戸カレッジで広がる

私は北海道大学に入学するまで海外に行った経験がなく、グループワークにも苦手意識を感じていました。しかし、1年次のグローバル基礎科目・オナーズプログラムを通してグループワークのトライアンドエラーを繰り返し、仲間と一つの目標に向かって取り組むことのやりがいを感じるようになりました。2年次には授業運営に携わるチューターとなり、1年生が円滑に学べる環境づくりについてチューター同士で試行錯誤を重ねました。周囲には、自分の研究したい分野を明確に持ち、そのために積極的に海外へ挑戦する学生が多く、私自身も刺激を受け、2年生の夏には国際インターンシップに参加し、3週間マレーシアで



研修を行いました。

また、新渡戸カレッジでは多様なバックグラウンドを持つ人々と交流する機会が多く、特にセルフキャリア発展ゼミでは、自分が将来どうなりたのかを2日間考えながらOBOGや同級生のキャリアプランを聞くことができ視野が広がりました。新渡戸カレッジは、自分の視野を広げ、新たな人や価値観に出会える場所だと感じています。



02

農学部 生物環境工学科 二宮 育己さん

実存的な交わりの場所

外国語習得や多角的な視野の涵養だけでなく、価値観や専門が違う仲間とチームを組んで何かに取り組む経験は、私を大きく成長させてくれました。1年次のグローバル基礎科目に留まらず、チューター業務で他の学生と議論を重ねた上で講義を作ったり、円滑なチーム運営に役立つツールの扱いを習得したりと、どんな分野でも重要なチームワークの能力を高めることができました。このスキルの向上には、AIや授業を聞くだけではなく、やはり自分と近い他者との実践経験が不可欠だと思います。新渡戸カレッジでチームワークを経験し、時に失敗しながらも、社会課題解決の為に必要なリーダーシップを身に付け



ていけるこのプログラムは、他に類を見ない貴重で有意義な場所です。また、海外の農村で研修したり日本政府が実施する国際交流事業に参加したりと、海外の食料生産に従事したい私にとって貴重な経験を積むためのきっかけも頂きました。「大学で成長して社会に貢献したい!」という方はぜひ入学してみてください!胸に大志を抱く新渡戸生からの刺激は、かけがえのない宝物です。



03

総合化学院 総合化学専攻 奥 侃大朗さん

「自分を知る」ための多文化交流

「多様な専門性と国籍を持つ仲間の中で広い視野を得たい」と考え、大学院カリキュラムに入校しました。

プレプログラムでは、提示された課題に対し、自分の意見を英語で論理的に伝える訓練を重ねました。ここで培った伝える力は、自ら課題を発見するオナーズプログラムにおいて大きな土台となりました。両プログラムを通じて、批判的思考を前提とした傾聴力と発信力が磨かれました。

特に印象深いのは、「札幌における食事制限がある人の生活」というテーマに取



り組んだ際のことです。専門も国籍も違う仲間が意見をぶつけ合う中で、自分が何を問題視し、どう解決しようとするのかいかに自身の価値観に縛られていたかに気づき、自分のアイデンティティを客観的に捉え直すきっかけとなりました。

新渡戸カレッジの魅力は、単なる語学力の向上に留まりません。異なる背景を持つ仲間と時に楽しく時に真剣に議論し、「新しい価値観のパラメータ」を獲得できる点にあります。たとえ英語が完璧でなくても、意見が対立してもまったく問題ありません。ここには、相手を深く理解しようとする志の高い仲間がいます。大学院カリキュラムで、ぜひ最高に刺激的な学びを体験してください。

04

経済学院 現代経済経営専攻 修了 TRAN UYEN THI TUさん

Bridging the Pacific and Beyond

"I wish to be a bridge across the Pacific," Dr. Inazo Nitobe once said. More than a century later, his aspiration has been realized through the graduate curriculum for international students like me at the institute named after him. At Nitobe College, students from diverse disciplines, cultures, and nationalities come together, crossing boundaries of knowledge to embrace a shared journey of growth.

Nitobe College has broadened my perspective on practical issues and encouraged me to discover novel solutions through interactions with distinguished experts, scholars, and peers from diverse backgrounds. I have also had the opportunity to explore our personal potential in an international environment, where adaptability, cooperation, and teamwork are essential for moving forward. Moreover, the program has further guided me through reflective practices to identify my strengths and core values, helping me stay grounded as I engage with the broader academic landscape. Most importantly, Nitobe College has taught me to live and learn, to test and fail, and to grow with courage and belief in better possibilities ahead.

As a graduate of the Nitobe College Honors Program, I am proud to continue my mission of building bridges with the remarkable individuals I encountered, while advancing knowledge in my field and collaborating across disciplines to develop meaningful solutions for a better world.



フェロー・メンターからの

応援メッセージ!

Message 01

三村 直己 フェロー | 3Dヘテロ集積アライアンス事務局 | 出身学部等 理学部 |

広い視野で、仲間と未来に

AIがついに主役へと躍り出ました。半導体の発展に伴い、フィジカルAI等が我々の生活に直結し始めています。進化のスピードは加速され、人間がどの様にコントロールし、使用し、共存していくかが課題です。すべてが複雑化、多様化していく中、一人での対応では難しくなっていると感じています。

このような社会で必要なことは、専門的な知識を持った様々な分野の仲間が集まるチームでの活動だと考えます。チームで知識、アイデアを出し合えば、複雑で多様化した社会への対応は可能です。そのチームに参加するのに必要なモノは3つあります。一つは専門的な知識。これは主に大学で皆さんが学ぶことです。二つ目はコミュニケーション力。そして三つ目は広い視野です。複雑化すればするほど、一専門分野で解を見つけることは難しいです。自分の専門に加え、チーム仲間との会話で彼らの専門にも興味を持ち、関係性を探し、見つける。様々な事に好奇心を持って、触れてみるのが大切です。

学部横断で仲間が集まり、一つのテーマを調査し提案をする、仲間と今の課題、将来についての会話ができる新渡戸カレッジという場は皆さんにとって、様々なことを考えるヒント、そしてアイデアをくれる楽しい場になるのではないかと思います。



Message 02

廣重 勝彦 フェロー | 北海道大学東京オフィス副所長・証券アナリスト | 出身学部等 法学部 |

AI時代を生きるあなたへ

時代がどのように変わろうとも、人として輝くことができる力を、あなたは新渡戸カレッジで得ることができます。それは、AI時代を生きる強力な武器にもなります。

あなたが社会で活躍している10年後の世界では、「知識を持っていること」や「正確に作業をこなせること」の価値はほぼゼロになるでしょう。AIエージェントが頭脳労働を代替し、フィジカルAIが肉体労働を賄ってくれるからです。その時、人が人として輝くために必要なのは、テクノロジーに支配されない「identity(確固たる自己)」、他者とともに生きる「empathy(共感力)」そして社会をより良くしようとする「ambition(高い志)」です。

実はこれは、長きにわたり北海道大学で培われてきた精神であり、新渡戸カレッジはあなたがそれを具体的に身に着ける場です。特に、フェローゼミでは、社会課題の解決を目指して、実際に現場に出かけ、人と出会い、仲間と議論をして進めていきます。そこに大きな学びがあります。

この体験を通じて、あなたは次第に「信用・信頼」という大きな財産を得ることができます。信用される、信頼されるあなたは、何かを本当にやりたいと思ったとき、周りの人が進んであなたをサポートしてくれるでしょう。その成果はきっと社会を良くすることにつながります。

迷ったらやってみること。それが“Be ambitious”です。



Message 03

黒田 垂歩 メンター | ブラックフィールズ コンサルティング | 出身学部等 薬学研究科 |

新渡戸カレッジで、君だけの地図を描け

戦争、AI、気候変動——今、世界は誰も経験したことのない混乱の中にある。君たちが社会に出る頃、職業の多くが姿を変え、常識だったルールが通用しなくなっているかもしれない。

私も、君たちと同じように迷った。大学生の頃、進路も就職も、何が正解かまったくわからなかった。地図のない道を方位磁針も持たずに歩いているような感覚だった。

でも今、はっきり言える。あの迷いは、無駄じゃなかった。

迷うのは、真剣に考えている証拠だ。その迷いと向き合い続けた人間だけが、本当の意味で「自分の軸」を手に入れられる。それがこの時代の「唯一の正解」を導く方法だと思う。

新渡戸カレッジに入るのに、優秀さは関係ない。私自身、特別優秀だったわけでも、明確な夢があったわけでもない。必要なのは、世界と向き合う本気と、自分と向き合う誠実さ、それだけだ。

学部の壁を越えて議論し、海外の仲間と価値観をぶつけ合い、様々な分野のロールモデルたちの生き様に触れる。ここでは、正しい答えを覚えるより、問いを立てることを学ぶ。知識を積むより、それをどう使うかの感性を研ぎ澄ます。

私が君たちに伝えたいのは、ただ一つ。今、迷っているなら、それも才能だ。その迷いごと、世界に飛び出してほしい。問いを生み出し、自分なりの解を導き出してほしい。そのための勇気を育み、号砲を鳴らすスタートライン。それが、新渡戸カレッジだ。かつて地図のなかった道が、君だけの地図になる。君の挑戦を、待っている。



Message 04

石川 憲一 メンター | (株)日本医療器研究所 | 出身学部等 工学研究科 |

新渡戸カレッジは、座学ではなく、実践を学ぶ機会

ちょうど5年前、社会人としてのキャリアも終盤に差し掛かり、そろそろ社会に恩返しをしたいと考え始めた時に、“新渡戸カレッジ”のメンターとして参加させてもらえる機会を得ました。

多くのメンターが北大の卒業生であり、年2回のメンターフォーラムで、キャリアについて自らの経験を惜しみなく共有し、アドバイスします。私の場合は、理系(修士)でしたが研究職を目指さず、マーケティングやビジネスサイドへ飛び込んだ話を含め、実際のキャリアをベースにアドバイスをしています。私が管理職研修で話している内容と全く同じですので、就業前に先取りするチャンスです。他のメンターも素晴らしいキャリアをお持ちの方々ですので、話の内容だけでなくロールモデルとしても参考になると思います。

また留学生も多く参加していますので、英語でのコミュニケーションが必須となります。国際感覚を磨くこともできますし、文化を含め学べることは無限大です。

新渡戸カレッジは、座学ではありません。授業では学べないことが学べます。知識は既に十分に習得していると思いますので、社会でどう活用していくのかを経験できる新渡戸カレッジで実践を学びませんか。

メンターを代表して、皆さんの参加を心よりお待ちしております。





お問い合わせ先

北海道大学 学務部教育推進課

新渡戸カレッジ推進事務局 新渡戸カレッジ担当

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

Tel. 011-706-5414 / 5135 (学部) | 011-706-8187 / 5596 (大学院)

Mail nitobe-college@academic.hokudai.ac.jp (学部)
nitobe-school-office@academic.hokudai.ac.jp (大学院)

Web <https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/>

